

その他の土石採取業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	4	4 ～ 5	ダンプトラックで育苗用の粘土を化学肥料製造業者へ納品し、再度土取り場へ向かうための国道を走行中、前方を走行していたトラクターに追突し、道路右側の防雪柵に激突した。	221	17	1～ 9
1999	6	14 ～ 15	原石山から発生する表土等の土捨場において、表土を運搬してきた25トンダンプトラックが盛土の路肩から45度の斜面を約11m墜落したので、ドラグショベル2台で起こそうとしていたところ、1台のドラグショベルが路肩から48度の斜面を約13m墜落したので、運転席から飛び降り、斜面に打ちつけられた。	142	1	10 ～ 29
1999	6	11 ～ 12	資材置場に一年前から放置していたバックホーを使用しようとしたが、バッテリーがあがっていたため4mケーブルを小型ダンプのバッテリーと接続してエンジンをかけたところ、バックホーが右旋回したため、ケーブルの巻き取り作業をしていた者が、小型ダンプ助手席ドアとバックホーのカウンターウエートとの間にはさまれた。	141	7	1～ 9
1999	9	7 ～ 8	前日までに掘削した土砂を搬出するため、法面の下で作業の準備をしていたところ、高さ30m、幅15mにわたり法面が崩壊し、2名がそれぞれ乗っていたドラッグショベル、11tダンプと共に土砂に押し流されて埋った。	711	5	10 ～ 29
1999	9	7 ～ 8	前日までに掘削した土砂を搬出するため、法面の下で作業の準備をしていたところ、高さ30m、幅15mにわたり法面が崩壊し、2名がそれぞれ乗っていたドラッグショベル、11tダンプと共に土砂に押し流されて埋った。	711	5	10 ～ 29

2000	6	9 ～ 10	砕砂洗浄プラントのホッパー内に入って砂落としをしているときに、同僚作業員がショベルローダーで砕砂をホッパー内に入れたため生埋めとなた。	418	90	10 ～ 29
2000	4	11 ～ 12	残土捨場において、他の現場から採取した土を車両搬入路から4tトラックで深さ10mの窪地に投棄しているときに、車両がバランスを崩し転落した。	221	1	1～ 9
2000	8	14 ～ 15	ドラグショベルで高さ50mある崖下の砂の掘削、採取作業を行っていたときに、高さ約20m、幅約30mにわたり山肌が崩壊し、ドラグショベルとともに生き埋めになった。	711	5	1～ 9
2000	4	10 ～ 11	山砂採取場の高さ約13mのベンチ上でドラグショベルで地山の掘削作業を行っていたところ、小規模な崩落が発生し、しばらくして、地山が高さ約50m、幅約50mに亘って崩壊したため、作業道を降りかけていたドラグショベルがこれに巻込まれて作業道より転落し土砂の下敷になった。	711	5	1～ 9
2001	3	16 ～ 17	作業場内でトラクターショベルを運転中、高さ約3.5mの法面からトラクターショベルとともに転落し、車体に挟まれた。	711	1	10 ～ 29
2001	10	16 ～ 17	ドラグショベルのバケット(容量1.3?)に付いているフックで鋼製ホッパー(約2t)を吊り上げ受け台に据える作業中に、玉掛用ワイヤーロープが切断し落下したホッパーが受け台上で補助作業をしていた者に激突した。	372	4	100 ～ 299
2002	2	16 ～ 17	採石作業現場において、四輪駆動のトラクターショベルを運転して傾斜角23度の斜面を移動(下降)中、バランスを崩して斜面上を約30m(高さ約12m)転落した。	141	2	10 ～ 29
2002	3	13 ～ 14	昼休憩が終わって砕石プラントを再始動させる前に、ベルトコンベアー等のプラントの状況を点検するためプラントの架設通路を歩行中、通路の手すりが設けられていなかった箇所から約3.6m下の砂利地面上に墜落した。	417	1	10 ～ 29
2005	5	18	庭石用の石をドラグ・ショベルにてつり上げて車両積載形トラッククレーンの荷台に積み込んだ後、玉外し作業を行い、バケットを移動しようとし	142	6	1～ 9

		19	たところ、被災者にバケットが激突した。			
2005	2	8 ～ 9	ダンプトラックを移送するため、ステップ及びミラーを取り外す作業中、すぐ横で作業中のドラグ・ショベルが旋回したため、ドラグ・ショベルのバケットとダンプトラック車体との間に挟まれた。	142	7	1～ 9
2012	3	10 ～ 11	キャタピラ式グラップル（車両系建設機械には非該当）にて、伐木の仕分け作業中に横転し、運転していた被災者は、損壊したキャビンに胸部を圧迫されて死亡した。	149	2	10 ～ 29
2015	7	9 ～ 10	被災者は、林道新設現場へ路盤用の再生骨材を運搬するため、骨材6.5立米（約7.8t）を積載したダンプトラック（最大積載量8.6t）を運転し林道を走行中、林道脇の崖からトラックごと約5.5m転落して被災した。発見時、被災者は会話ができる状態であったが、救助活動中に容態が悪化し、救急搬送先の病院で死亡が確認されたもの。	221	17	10 ～ 29
2015	2	16 ～ 17	チェーンソーで立木を伐採する作業中、立木にチェーンソーが噛んで動かなくなったため引き抜こうとしたところ、立木が倒れ、下敷きになった。	712	5	1～ 9
2016	8	8 ～ 9	被災者は、病院の駐車場で仕事の打合せ中に突然倒れ、救急搬送されたが、心タンポナーデ、大動脈解離により死亡した。	921	90	1～ 9
2017	6	16 ～ 17	被災者は、事業主と2人で14時頃から、個人所有の雑木林の傾斜地で偏心木の伐木作業に従事していた。当該木は傾斜地にあり、被災者がチェーンソーで受け口を切り、次に追い口を切っていたところ、途中で木が倒れた。その際、倒れた木の根本部分が裂けて残り、それ以外の木の部分が被災者の背中に当たり下敷きとなった。	712	6	1～ 9
2017	4	16 ～ 17	被災者は、砂利プラント構内にある排水処理施設建屋内において、昇降階段上に俯せの状態で見失っているところを、同僚に発見された。発見時、受水タンクへ注水していた水が溢れ出し付近は水浸しになっていた。被災者は心肺停止の状態で見送られ、病院で死亡が確認された。	413	1	1～ 9

2019	3	<p>被災者は、前日に降った雨によりぬかるんだ碎石プラント内の土砂（泥状）を除去するため、ホイールローダーを自ら運転作業中、土砂を一旦プラント外へ捨て、再度現場に戻ろうと後進していたところ、当該ホイールローダーの右後輪が地山に乗り上げ車体が傾き、被災者が地面に投げ出された。その後、横転してきたホイールローダーに頭部が挟まれたもの。</p>	141	2	30 ～ 49
------	---	--	-----	---	---------------

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。